



真宗大谷派 (東本願寺) 天満別院

# 六字城

719号  
2024  
10/1

大阪市北区東天満1-8-26  
06-6351-3535  
代表者 輪番・奥林 曉

## 鹿王ニグロダ

遠い昔のインドです。鹿の肉が大好きな王様が政治もそのけで鹿狩りに熱中してしましました。鹿狩りにお供させられる人々も森の鹿たちも毎日酷い目に遭っていました。

「王様このままでは、たくさんの鹿が毎日ひどく傷ついてしまいます。森も田畑も荒れるばかり民も疲弊するばかりです。王宮の森に鹿を囲いこんでそこから一頭ずつ調理場へ鹿を連れていくことになさいますか」と大臣が提案、王様はしぶしぶ承知しました。

鹿は五百頭ずつ二つの群れがあり、それぞれに王がいて一方はニグロダ、お釈迦様の前生で、もう一方はサーカ、提婆達多の前生でした。鹿の王たちは命が保証されていました。ある日サーカの群れの妊娠中の鹿が調理場へ運ばれる順番に当たりました。

「子供が産まれるまでどうかお待ちください」牝鹿はサーカに必死で頼みました。サーカの「ダメだ！」の冷たい一言に、牝鹿はニグロダの許へ行き「私は覚悟ができていますが、お腹の子供の命だけは助けてあげたいのです」と懇願しました。

「わかった。私が代わろう。安心して仔を産

## 報恩講 お手伝いのお願

来る10月3日(木)～5日(土)、例年の如く天満別院報恩講が勤修されます。つきましてはご門徒の皆様にお手伝いをお願いしたいと存じます。半日だけでも構いません。ご参加いただきますようお願い申し上げます。

日程 10月4日(金) 9時～17時まで  
10月5日(土) 9時～17時まで

## 今月の伝道掲示板

人を失った悲しみの深さは

生前にその人から

我が身が受けていた

贈りものの大きさであった

—宮城 顕—

毎年、お盆を迎え、秋の彼岸を迎え報恩講を迎えたら一年が終わったように感じます。

今年も報恩講の時期がやってきました。始まるまでは準備などに追われて余裕のない日々を過ごしていますが、いざ始まればあっという間に終わってしまいます。毎年勤めさせていただきますといえやはり本番になると気が引き締まる思いです。

皆さまと一緒にお念仏を称えられよう準備して参りますのでご参拝お待ちしております。

(I)

みなさい」ニグロダが優しく言うて調理場へ向かおうとしました。するとニグロダを慕う群れの鹿たちが一斉に「とんでもない。私が代わります」と口々に叫んで調理場への道は大騒ぎになりました。知らせを受けた王様がニグロダに言いました。

「お前とサーカの命の安全を保障してあるぞ」  
「はい。私の命は王様から保障して頂きました。ところが私はこれまで何ひとつとして王らしい行いができていないことに気づいて、毎日心がとても痛んでいました。ですから今日このお腹の子供をいとおしむ母の願いに心から喜んでこたえることができます。たった一つでも群れのためになることができたらほっとしているのです」

ニグロダの顔は喜びに輝いています。王様はまるで雷に打たれたようでした。少し平静を取り戻した王様は威厳を取り繕って言いました。

「王はそもそも民に恩恵を施しているのだから、民が王に仕えるのは当然であろう」  
「王は国全体を自分の家族と考え、絶えず民のためを考えて自分のことは一番最後にするのが私の考えです」ニグロダの瞳はますます輝いていました。

王様はその輝きに触れて思わず王冠をはずしてニグロダの前に額ずいていました。

提婆達多はお釈迦さまの従弟、教団の指導者を望んで度々お釈迦さまを殺そうとした。  
(ジャータカ十二番ニグロダ鹿本生物語)

～ご縁を大切に～

日下念珠店

〒600-8174  
京都市下京区烏丸通花屋町下る  
TEL075-351-6325 FAX075-341-5255  
<https://www.kyo-kusaka.jp>

寺町という歴史ある地域に  
根ざした老舗葬儀社

(株) 天満花重

〒530-0041  
大阪市北区天神橋3-4-6  
電話 (06)-6351-3875  
FAX (06)-6351-6260

報恩講 日程	10月3日(木)	速夜 法話二席 13時30分
	10月4日(金)	晨朝 7時
		日中 10時
		御伝鈔拝読
		結願速夜 法話一席 13時30分
	10月5日(土)	結願晨朝 7時
		報徳会(音楽法要) 法話一席 10時30分
		結願日中 法話一席 13時30分

報恩講 親鸞忌七六三年

親鸞聖人の御命日である28日、縁のある方々が集まり、御命日の集いとして、お念仏の教えを聞く、聴聞の場が開かれてきました。特にご本山では祥月命日を結願として11月21日から28日まで報恩講が勤まります。各別院、お寺、ご門徒の家でもそれぞれ報恩講が勤められてきました。残念ながら大阪では、各家庭での報恩講は、お勤めになる方は、大変少なくなってきました。

蓮如上人の頃から、御命日の集いが、報恩講という名称で、真宗門徒にとつて、一年で最も大切な、御仏事として毎年勤まってきました。各家庭で勤められない今ぜひ共に、天満別院報恩講にご家族ごぞつてご参拝ください。

天満別院報恩講

講師 武宮信勝先生

講題 「迷いに立つ」



武宮 信勝先生のご紹介

北海道帯広市生まれ  
大谷大学真宗学科卒業  
大谷派宗議会議員2期歴任  
前天満別院輪番  
現・宗教教誨師 保護司  
九州教区本照寺住職  
佐世保別院輪番

ご講師から一言

新型コロナウイルス感染症不安が少し和らいだ状態にある中、気温の沸騰化現象によって熱中症警戒アラートが消えることのない猛暑日の連続。大型台風

襲来による被害の拡大。進まぬ能登半島地震被害からの再興、南海トラフ地震臨時情報等々。  
人と生まれた私たちに、今、生きていくことの不安。さらにはこれから生きていくであろうことの不安は益々複雑多岐になっていくのであろうと思われる。

こうした不安は、深まりを増し続け、生きていくことへの迷いとなり、心では押さえきれないものになってはいないだろうか。

苦悩・悲しみ・傷みのどん底から「迷いの衆生よ」と呼びかけてくださる仏さまから、「汝よ、念仏申せ」と呼ばれていたのはこの「私」でしたと「鎮く」方がおられた。「重誓名声聞十方」(重ねて誓うらくは、名声、十方に聞こえんと)。

そのお方は、宗祖親鸞聖人であり、その御遺徳を偲ぶ報恩講さまに出会い、今一度「迷い」から逃げ惑う「私」から「迷い」の中に立つ「私」に目覚めをいただきました。

七ヶ月振りに皆さまにお会いできますこと楽しみに。

Q&A

地獄はあるのでしょうか?



答え

最初に日本人の地獄観に影響を与えたのは、七高僧のひとり源信僧都の著書『往生要集』です。そして、『往生要集』の文章をもとにして描かれました地獄絵図が私達の地獄のイメージとなっています。さて本題にはいらしていただきます。

地獄はあるのですか、と尋ねられたら、ありますと答えさせて頂きます。ただ生前に悪い事をし、亡くなつてからいく世界ではなく、生きながら私達が常に作り出している世界です。私達が常に作り出している世界と聞いて、驚く方もいることでしょう。しかし、厄介なことに私達は

その事に気付かず生きています。私達に分かりやすく、馴染みのある地獄の一つに等活地獄というのがあります。鬼がこん棒で人をペしゃんこにし、ペしゃんこにされた人が風によって飛ばされ元に戻るといふことが永遠に繰り返される地獄です。この地獄を私達の日頃の姿で例を挙げて説明しますと、お酒を飲みに行き、お酒を飲み過ぎて次の日に二日酔いになり、苦しい思いをしているにもかかわらず、何日かしたらその事を忘れたと同じ失敗を繰り返します。自分の欲を最優先にし、自分自身を見失った世界です。地獄は、私達の思いや都合によって作り出される迷いの世界であり、生きていく限り私達は地獄を作り出してしまっています。今、自分が地獄にいると気付くことが出来た時、地獄が障りとならなくなります。その事に気付く縁となるのが南無阿彌陀仏とお念仏申すことです。どうぞ共にお念仏申しましょう。

(第14組 専隆寺澤田友)

ご案内

親鸞さまに会いに行きましょう

真宗本廟(東本願寺)では来る11月21日(木)から28日(木)にかけて「御正忌報恩講」が厳修されます。

別院門徒会として、団体参拝を左記の通り計画致しました。是非ご参加下さい。

記

日程 11月21日(木)

午前7時30分集合  
午前7時45分出発

集合 天満別院 本堂

参加費 1人5000円

※詳細は同封した折り込みをご覧ください。



報告

秋季彼岸会 勤修

9月20日(金)、御講師に13組即念寺洲崎善範師と角谷早音美さんをお迎えし、講題「出遇い直し」についてお話いただきました。

師は、死というのは、単に別れることでは無く、今後色々な形(歌・思い出など)で亡き人と出遇い直しをすることであり、そのことに気付かせいただくのが仏教であると話されました。

法話の硬いイメージが歌と音楽で入りやすく聞きやすいものになっていくのを感じられました。



13組即念寺洲崎 善範 師と角谷 早音美さん